

# 適期田植えコシヒカリの育苗管理

■ 温度管理やかん水に注意し、軟弱徒長苗を防ごう ■

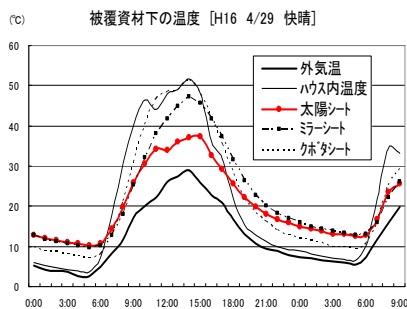
この時期（4月下旬～5月上旬）のコシヒカリの育苗は、原則的に高温・高日射条件となるため、苗は徒長しやすく、ヤケ苗も発生しやすいため、水管理と温度管理に注意が必要です。

又、根張りを良くするため、換気を十分に行った上（苗丈の伸長を抑え）、育苗期間は20日間程度を目安としてください。「田植えまで苗が待ってくれない」ということにならないよう注意しましょう。



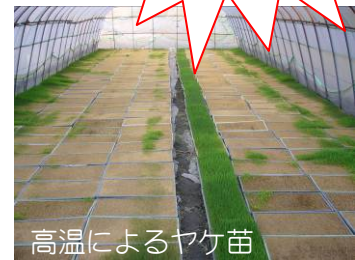
硬化期のかん水は極力控えめにし、朝一番温度が上がる前の換気を！

## 緑化期の管理（ヤケ苗防止対策）



- 出芽揃い（1 cm 程度）を確認してからハウスへ搬出。
- 搬出時に覆土を落ち着かせる程度に必ずかん水する。
- 搬出後は温度の上昇しない太陽シートで遮光したほうが望ましく、保温性の高いシートはヤケ苗の可能性が高くなります。（左図参照）
- この時期保温の必要はほとんどないが、稀に夜間最低気温が低く（5℃以下）になる場合は二重に被覆し、保温するが、低温の危険が去ったら速やかに被覆をはずす。

- 外気温、日射量があがって、ハウス内の温度が30℃を超えるような場合、たとえ緑化中であっても換気（太陽の反対側のビニールを開放）し、ヤケ苗の発生を防止しましょう。
- 遮光期間中、緑化するまでは、床土の乾き具合を観察し、乾いていれば、表面がぬれる程度にかん水してください。
- ハウス内が高温になると病気の発生が懸念され、軟弱徒長苗になります。緑化完了後は、すみやかに被覆資材を取り除き徒長しないようにする。
- 緑化期の昼間のハウス内温度は20℃～30℃、夜間は10℃～15℃を目安にしましょう。



## 硬化期の管理（草丈よりも根張り かん水はひかえめ 換気は多めに！）



硬化期以降は苗丈の伸びをなるべく抑え根量を増やすため、かん水を控えめにすることが重要です。

この時期は、朝、苗を見て葉先に露玉を持っていればかん水せず、葉先に露を持たない箱には、午前中にたっぷりと灌水する。かん水は朝1回たっぷりやり、回数をなるべく少なくするようにしましょう。

- 硬化期の日中のハウス内温度は、10時頃には40℃～50℃まで上がることが多く、軟弱徒長苗を作らないためには、換気により温度を適正に保つことが要件となります。
- 一旦、上がったハウス内の温度は下がりにくくなります。遅くとも、朝8時頃までにはハウスを開けましょう。硬化期になれば、保温をする必要はほとんどなく、むしろハウスを全開にするなど、温度を下げることを徹底してください。（ハウスの役目は雨風をしのぐだけ）

緑化期の温度管理は特にこまめに行い、ヤケ苗を防止しましょう！

# 「減肥 疎植 細植え」による過剰生育抑制

□ 基肥窒素は1~2キロ/10a 植え付け本数は3~4本/株を目安に □

基肥量の適正化（基肥は少なめが善）

基肥窒素が多いと初期の分けつ確保は早く、茎数も多くなる。その後強い中干しで生育を制御し、倒伏を避ける。しかし、中干しの時期は梅雨で、中干しがうまくできない年も多い。そういう年は、せいぜい穂肥を遅らすか、穂肥をやらないかになる。基肥一括肥料の場合は打つ手がなくなってしまいます。

基肥量、栽植密度の再確認



□ 適期田植えの稲は、初期生育期が高温になり、地力窒素を吸収利用する割合が高まるため、5月上旬田植えに比べ、幼穂形成期までの基肥量が少なくなります。

□ 基肥窒素を減らし、茎数を適正にすることで耐倒伏性を高める必要があります。基肥窒素を減らした稲は過剰分けつの稲よりも穂肥の効果が高くなる（適正な穂肥量がやれる）ため、登熟も向上して秋まさりの稲になります。

5月中下旬田植えの標準基肥量（平坦地・山間地）

基肥一発（ワンショット） 穂肥の必要なし			分施タイプ 穂肥の必要あり	
全地域	平坦地用	山間地用	全地域	
LPSSコシ名人	LPSS特2号	セラコートR024	元肥1号	コシ専用086号
				
20~30 kg/10a	40 kg/10a	35~40 kg/10a	10~15 kg/10a	15~20 kg/10a

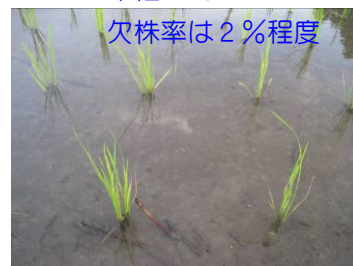
※ 尚、穂肥量は5月上旬植えも中下旬植えも同量必要となります。基肥を一発肥料で基準より少ない施用量に設定した場合、穂肥量も減少することとなるので注意しましょう。

細植え・疎植（平坦地では50株/坪以下）

細植えにする理由は、太いしっかりとした茎をつくるため。太いしっかりした茎ができると、穂も大きくなる（大粒化）し、倒伏にも強くなります。植付け本数の多い稲は、分けつが多くなり株がりっぱに見えるが、一本一本の茎が細く、穂は大きくなりにくい。また、目に見えて倒伏には弱くなります。とくに、平坦地では栽植密度を50株/坪以下（株間20cm）にし、1株当たりの有効茎歩合を高めましょう。

3~4本植えでも

欠株率は2%程度



平坦地では栽植密度50株/坪以下と細植えで小柄な稲作りを！

適期田植えによる施肥量の削減は基肥で行い、穂肥量は適量どおりが前提！



携帯電話用メールサービス始めました「あなたの携帯電話に営農情報をお届け！」  
 稲作技術情報をよりタイムリーにお届けできるようメールサービス配信中です。  
 アクセスは左のQRコードをお手持ちの携帯電話バーコードリーダーで読みとるか、  
[232g3r@a01.hm-f.jp](mailto:232g3r@a01.hm-f.jp)へ空メールを送信して登録ください。登録は無料